

リフレクションカード 2016年度前期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
基礎助産学Ⅱ	1	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・助産別科は全員が資格取得を目指しており、受講動機をみると「必須科目である」100%であることはそのことを示唆している。 ・実習では、助産師も助産師外来において超音波検査を実施していることもあり、科目内容は講義のみでなく、超音波検査についての演習も組み入れている。 ・学生の授業評価には、「図の写真が多く、カラーのレジュメで見やすく理解しやすかった」とあった。病態生理や症例の実際を視覚的にもわかるよう講義資料はカラーで示し、学生の理解に努めている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は63(±8.3)点であった。標準レベルに達した者は3名のみであり、理想的レベルに達した者はいなかった。「基礎助産学Ⅱ」は、男女のリプロダクションに関する形態・機能、疾患および治療についての講義内容であり、理解した内容を「説明ができる」ことを目標としており、基礎科目ではあるが専門性やレベルは高いといえる。「到達度自己評価」について、知識に関する項目が他の項目より高かった(平均値3.5)が、実際の成績には反映されていなかった。「学習量の評価」の予習・復習時間をみると、「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」で「1～3回」と回答した学生および「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」で「1～3回」と回答した学生はそれぞれ57%であり、「0回」と回答した学生はそれぞれ36%であり、授業準備が十分なされていないといえる。疾患や治療について理解するためには持続的な予習・復習が必要であり、授業への取り組み方が課題である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の理論領域に位置する基礎科目であり、必須である。「学習到達度の自己評価」の項目では知識理解に関する平均値(3.5)が他の項目と比べて高い。専門科目につながる学習の基盤であり、内容的には妥当であると考え、一定の成績を収められるよう持続的な予習・復習を行うよう働きかける必要がある。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解・思考判断に対する達成度は低かった。本科目は、専門科目につながる内容として妥当であると思われるが、内容を理解するための事前の学習や復習が必要であり、学習量に関して課題がみられた。 ③まとめ 以上より、学習量として予習・復習に関する課題が残るが、内容に関しては妥当であると考え。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示しください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	授業の質の評価において、「授業中に、自分の意見をまとめる、話し合う、発表するなど、学生が参加する機会が作られていた」の平均値（2.8）が他の項目に比べ低かった。基礎科目であり、知識の教授が中心であり、講義ではまとめたり、話し合うことは時間的にもちにくい。技術演習時間を利用し、話し合える場として授業に参加できるよう促していく。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示しください。	本科目は助産の実践領域（専門科目）の基盤となる基礎科目である。学生の授業評価より、予習・復習に関して課題等で時間がないという意見があったが、必須科目であり、専門科目につながる重要な科目であるため、（少しの時間でも）持続的に学習に取り組めるかが課題といえる。また、演習の授業を通して考える場面の提供について検討する。
-------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
母子の心理・社会学	1	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	○	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・学生の受講動機をみると「必須科目である」100%であり、国家試験に関わる分野で資格取得には必要な科目であると認識しているといえる。 ・講義内容は、科目の名称である母子の領域の留まらず、思春期・青年期から老年期まで解説している。女性の心理的・社会的な問題や課題をライフサイクル全域で理解できるよう工夫している。また、母子関係ではなく、父子関係についても言及し、親役割の発達過程についても学べるよう配慮している。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された	やや達成された		
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均点は74点(±7.4)であった。再試対象者は0名であった。標準レベルに達した学生は11名、理想レベルに達した学生は0名であった。 ・学習量の評価の予想 習・復習時間において、「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」で「0回」と回答した学生は36%、「1回～3回」と答えた学生は57%、「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」で「0回」と回答した学生は43%、「1回～3回」と答えた学生は50%いた。本科目は助産の理論領域分野であり、助産の実践領域の科目内容を理解するための基礎となるので予習・復習が必要であり、「0回」と答えた学生の授業への取り組み方が課題である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は助産の理論領域に位置する専門科目であり、必須である。 学習到達度の自己評価の項目では思考・判断に関する平均値(3.3)が最も高かった。学生も一定の成績を収めており、内容的には妥当であるとする。 しかし、内容を理解するための事前の学習や復習、レポート作成のための図書館の利用、学習量について課題がみられた。 以上より、学習量として予習・復習に関する課題が残るが、内容に関しては妥当であるとする。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

・「図書館の図書・雑誌・学術データベース」の利用について、約71%の学生が利用していなかった。評価方法がレポートであり、レポートの作成に必要な文献の検索を含め、図書館の利用方法について課題がみられた。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は助産の理論領域である。実践領域を理解するためにも予習・復習が必要であり、学習量の取り組み方が課題である。図書館を利用するなどし、授業で得た知識をさらに深める行動、まとめる能力が課題であると考えます。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	助産別科
氏名	天本 理恵

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母子栄養学	1	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①母子栄養学は、周産期の健康教育において重要視される妊婦、授乳婦の食事管理、栄養管理について学ぶ必修科目の1つである。よって学生全員100%が受講動機に「必修科目である」を挙げている。「関心のある内容である」が8.3%と低いことに関しては、助産別科での開講ということもあり、専門の科目ではないので、妥当な数値と評価できる。推測ではあるが、本科目に関心を抱き受講する学生の多くは、周産期看護の実務経験を持っており、妊産婦における食事や栄養の重要性を本科目受講前から理解していることが考えられる。本科目の講義を受講した結果、助産別科生が周産期における食事の重要性を理解し、関心をもち、将来的に活用することが出来る授業内容にするよう、努力していく必要がある。 ②栄養学科同様、スライド資料を作成し配布した。資料には板書を書き写すことのできるスペース等も設けた。座学だけではなく、調乳等の実習を講義の中に組み込むことで、母子の栄養学に少しでも興味を持ってもらうよう努力している。 ③学修準備性に関しては、約50%の学生が予習・復習を一度もやってないと回答している。昨年度、助産別科の学生に対しても、予習課題や復習テストの導入を検討する必要があると考えていたが、全8回の実習を含めた講義回数では、テストを導入する時間はなく、また助産別科の学生にとっては、専門の科目ではないので予習課題を出すことはしなかった。自由意見の中に、「周産期の病態（栄養に関する）のメカニズム等はわかるので、省いてよい。」という意見があった。この意見をうけ、他の助産別科の科目との共通事項のすり合わせが必要と感じたため、助産別科の教員と協議したと考えている。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	DP1(知識理解)、DP2(思考判断)に関しては、定期試験結果および実習時の課題から評価した。試験結果は14名の受講生中、A(秀)が7.1%、B(優)が57.1%と多く、C(良)28.6%と優の次に多かった、D(可)が7.1%で、不可の学生は0名であった。母子栄養学の理想的レベルの学生(助産別科では概ね80点以上を理想的レベルとみなす)は、AおよびB評価の学生であり、60%以上に及んだ。受講生全員が標準的レベルには至っており、結果として本科目受講に対する意欲の高さはうかがえた。また学生による授業評価においては、知識理解や思考判断が高いだけに限らず、本科目の該当DPに設定していない意欲関心や技能表現に関する自己評価が高い。講義への関心の高さは、試験結果や、自己評価で判断することが出来たが、学習量の評価では、50%の学生が予習および復習を一度もしていなかった。今後は助産別科の他教科との関連を含めて予習・復習を促すことが出来るよう、シラバスの活用も含め、検討していく。また、学習のために図書館を利用したり、インターネットを利用して検索学習を行う学生がほとんど居なかった。特に図書館の利用に関しては、指定図書の紹介など講義でおこなっているものの、書籍を使っている課題等は出題しておらず、図書館活用も視野に入れた課題設定をしていく必要がある。ただし、助産別科生に対し、栄養学分野のみでの課題設定は厳しいことも考えられるため、他の周産期ケア科目の中での課題の組み込みも検討する必要があり協議を必要とする。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。このことから、受講動機の「必修科目である」が100%なのは、当然の回答である。また、本科目に対する学習到達度や試験結果から、必修教科ではあるものの関心の高さや達成度の高さは伺えたため、DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性に関しては、妥当であったと考える。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価では、50%の学生が予習、復習を一度もしていないと回答した。理由としては、「他の科目や実習課題で忙しかった。」等が自由意見にあがっており、助産学を専門とする学生たちに、栄養学課題の負担はあまりかけたくないという担当の気持ちもあるため、上記記載のように（目標達成状況）、他の周産期ケア科目の中での課題の組み込みも検討する必要があると考えている（例：長時間の陣痛、分娩時の栄養補給等）。この授業を履修する際にシラバス記載を参考にした学生は65%とまあまあ高かった。ただしシラバスを参考にした学生のうち「シラバスに沿って講義を受けることが出来た」、「教員のオリエンテーションに沿って授業を受ける計画を立てた」と回答している学生は0%のため、今後は講義初回のオリエンテーション時における、シラバスの説明、今後の授業の進め方、自己学習の仕方等を丁寧に実施していく必要がある。予習復習等自己学習に関しては、まずは、少時間でもいいので、予習・復習をする習慣をつけてもらえるよう、シラバス記載の予習・復習項目を常に意識するよう学生に促す。また、学生の意見の中に「講義内容が盛りだくさん」という意見があった、この意見は、毎年頂いている。講義回数が8回という関係上、周産期に限らず、幼児期、思春期および更年期の栄養学の知識も教授していかなばならないため、今後は、講義回数増も含め、助産別科教員と検討して対応していく。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は、助産理論領域の基礎科目の一つであり、必修科目である。また現代においては、助産師による妊産婦に対する食や栄養に関する知識の教授の必要性は高い。学生の到達度評価と試験結果から2つのDPは達成できていると考える。必修科目ながらも、今後も助産別科生が本科目の内容に興味をもち、社会で活用できる栄養の知識をつけることが出来るように、学生の反応をみつつ、常に意見を取り入れ、授業改善を行っていく。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅰ（妊娠期）	1	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機をみると「必須科目である」100%、「関心のある内容である」0%であった。資格取得には必要な科目であるが、学生の関心をひきつけられるよう具体的にイメージできる講義・演習内容の提示が必要である。 ・技術演習時は、演習内容を記した用紙を事前に配布し、自己学習をして臨むようにした ・分娩期の講義と同様、知識・技術がケアの実施に結びついていないという課題があり、演習内容に妊婦と助産師の役を体験（ロールプレイ）し、実習において適切なケアができるよう演習を工夫した。また、演習にて体験もしくは実施することで技術の習得を図ると共に、情報や観察したことをアセスメントし、レポートするよう工夫した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	達成された		達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は84(±8.1)点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達し、その内理想的レベルに達した者は4名であった。 ・DP別にみると、知識・理解は83%、思考・判断は86%、技術・表現は85%の達成度であった。また、学生の到達度自己評価においても、思考判断、関心意欲の関する平均値が高かった。意思思考判断では、判断するためにどのような知識や技術が必要であるかを把握し、根拠をふまえてアセスメントする能力が必要であるが、事例を用いて演習することで、包括的に捉えられたと考える。学習量の評価では、「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備(復習)をどのくらい行いましたか」の回答で、「4～6回」の学生が50%いた。学生の授業評価においても、「次回の演習準備に取り組んだ」という意見があった。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の実践領域に位置する専門科目であり、必須である。学習到達度の自己評価の項目では「思考判断」、「意欲関心」に関する平均値が他の項目と比べて高い。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考えられる。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解より思考判断に関する達成度がやや高かった(両者ものに80%以上の達成度)。学習の到達度評価においても、思考判断、意欲関心に関する項目の平均値が他の項目と比べ高かった。今後も症例を用い、知識理解が思考判断につながるよう演習場面をつくるよう検討したい。 ③まとめ 以上より、内容に関しては妥当であると考えられる。
--	---

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価に関して、予習・復習を全くしなかった学生はほとんどいなかったが、「余裕がなかった」、「忙しかった」という意見があった。事前学習や復習（練習）の時間の確保が必要であるが、他の教科との関連性も考慮し、振り返りの時間が持てるよう講義と演習の組み方の工夫が必要である。
---	---

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。	本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。基礎的知識、思考判断の習得については概ね達成できたが、授業では、事例の紹介については言及したが、自分の意見をまとめるなどじっくり考えるような時間がなかったと考える。「余裕がない」、「時間がない」という学生の意見より、演習時間も有効に使用し、復習する時間を確保することも検討する必要がある。
------------------------------	--

リフレクションカード 2016年度前期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅱ（分娩期）	1	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機をみると「必須科目である」100%であり、「関心のある科目である」0%であった。確かに資格取得には必要な科目であるが、学生の関心をひきつけられるよう具体的にイメージできる講義・演習内容の提示が必要である。 ・技術演習時は、演習内容を記した用紙を事前に配布し、自己学習をして臨むようにした。 ・昨年度の実習状況より、知識・技術がケアの実施に結びついていないという課題があり、演習内容を修正し、ケアに関わる演習に変更した。症例を用い、教員が対象者の役となり（ロールプレイ）、場面を切り取りながら、学生に考える機会を持たせ、アセスメント力・実践力を修得すべく工夫した。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	やや達成された	達成された	やや達成された		達成された	達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示し下さい。 <授業評価の指標> 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は80（±3・7）点であり、再試対象者は0名であった。全員が標準レベルに達したが、理想的レベルに達した者は0名であった。 ・DP別にみると、知識・理解は80%、思考・判断は78%、技術・表現は91%の達成度であった。思考判断では、診断を行うためにどのような知識や技術が必要であるかを把握し、根拠をふまえアセスメントする能力が必要であり、その点は十分ではなかったと考える。今年度も事例を用いたが、包括的に捉えられるよう次年度にむけて検討していく必要がある。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 <授業評価の指標> 「受講動機」「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみでの内容的妥当性 本科目は助産の実践領域に位置する専門科目であり、必須である。学習到達度の自己評価の項目では「知識理解」、「意欲」に関する平均値が高い。学生も一定の成績を収めていることから、内容的には妥当であると考え。 ②DP、行動目標からみでの内容的妥当性 成績評価から知識理解に比べ、思考判断に関する達成度が比較的低かった。学習の到達度評価において、「自分が学ぼうとしている専門分野において、学びを深めたいと意欲を持つことができた」の平均値（3.7）が高く、内容に関する学びの意識は高い。思考判断の達成度が他の項目より低い背景には、どのような判断が求められているのか学生に十分伝わっていない可能性があり、意図を説明するなど方法の工夫を考慮すべきであると考え。 ③まとめ 以上より、方法論に関する課題が残るが、内容に関しては妥当であると考え。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単に示してください。 また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお示ください。 <授業評価の指標> 「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など	学習量の評価に関して、予習・復習を全くしなかった学生はほとんどいなかったが、「余裕がなかった」、「忙しかった」という意見があった。分娩期は演習内容が多く、事前学習や復習（練習）の時間が必要である。他の教科との関連性も考慮し、振り返りの時間が持てるよう講義と演習の組み方の工夫が必要である。本科目において、思考判断の達成度に関して課題もあることから、考えたり、まとめる時間をできるだけ取り入れることを検討したい。
---	--

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお示ください。	本科目は助産の実践領域の中核となる専門科目である。基礎的知識の習得のついては概ね達成できたが、思考判断については課題がある。授業過程では、事例の紹介については言及したが、自分の意見をまとめるなどじっくり考えるような時間がなかったと考える。課題や技術練習等で時間がないという学生の意見より、復習できる場面を提供する必要があると考える。
------------------------------	---

リフレクションカード 2016年度前期

学科	助産別科
氏名	竹内 玉緒

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅲ(産褥期)	1	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	○	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	①本科目は臨地実習を前に 短期間で集中して開講されるため、予め看護基礎教育（特に母性看護学）における知識や技術の見直しが必要である。そのため、開講前に母性看護の知識や技術の復習として周産期のまとめ学習や技術試験を行い開講にそなえた。 ②母性看護の臨床経験が乏しい学生が多いため、産褥期にある女性をイメージしたうえで対象者の看護の根拠や方法を理解することを意図して、身体的特徴や生理についての理解を視覚的に深めることを目的にDVD教材の活用、模型を使用した技術演習を意識的に取り入れた。 ③他教科の課題の重複を配慮して、グループワークや個人ワークの時間を講義の中で確保し、図書館などの学内の教材を活用したり教員のアドバイスを受けやすい環境を整えた。 ④他科目との関連性を考慮して、知識や技術の積みかさねを意図して、時間割を工夫した。 ⑤昨年度より”思考判断能力を向上させること”を課題としてあげており、対象の訴えに対しアセスメントし必要な支援を提供する場面を設定し教員を模擬患者として演習をとりんでいるが、今年度はさらに実践場面を想定した演習をふやし学生自身が技術を表現することになることを目指した。
--	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	達成された	達成された	やや達成された		達成された	やや達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	評価は、演習の取り組み姿勢・レポート課題を10%、期末試験(知識理解・思考判断)90% で実施した。最終的な成績の平均点は73点であり、再試験対象者は0名であった。なお、20%以上の学生が理想的レベル(概ね80以上)に達した。目標別にみてもDPすべてにおいて標準レベルに達していた。一方、学生アンケートから、ほぼ全員が目標を達成できる確かな判断力を身につけたと実感できていた。予習復習の時間も半数以上が確保できていた。しかし、約半数の学生のみ図書館の資料やインターネットを活用して知識理解を深め広げていたため、より詳しく学びを拡げ深められるよう図書館の活用についても促していきたい。 褥期に関しては看護基礎教育の臨床実習で経験しており、妊娠期や分娩期に比べると知識理解力や思考判断力はある程度身につけていたため、取組みやすい科目であったと考える。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義が実施できた。受講動機は「必須科目である」100%であり、ほぼ全員がまじめに講義や演習に意欲的に取り組んでおり、達成度事項評価では全員が「そうだと思う」と回答していた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

本科目は「助産の実践領域」のなかの「専門科目」であるが、より専門的で高度な知識と技術を身につけることが必要とされることから、知識理解・思考判断のほか技術表現・態度も含めた講義を実施できた。受講動機は「必須科目である」100%であり、達成度事項評価では全員が「そうだと思う」と回答していた。また、DPすべてにおいても標準レベルに達していたことから、内容的には妥当性であったと考える。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

到達度自己評・達成度自己評価では、すべての項目においてほぼ全員が「そうだと思う」と回答している。さらに、学生全員が目標に達することができていた。短期間で集中的に行われる講義であり、かなりハードであるが学生全員が課題に取り組み知識理解力が定着し広い視野で思考判断が可能となるように、今年度の内容をより充実したものになるよう検討していきたい。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	助産別科
氏名	穴田 和子

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断的科目か	登録された受講者数
助産診断・ケア学Ⅴ(周産期のハイリスク)	1	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	○	○	×	×	○

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	・受講動機をみると「必須科目である」100%であり、国家試験に関わる分野であり、資格取得には必要な科目であるが、「関心のある科目である」0%より学生の関心をひきつけられるよう具体的に講義・演習内容の提示が必要である。 ・技術演習時（医師が担当）は、全学生が経験できるよう物品の準備や配置、適宜指導が受けられるよう配慮している。 ・昨年度の実習状況より、知識・技術がケアの実施に結びついていないという課題があり、ケアに関わる内容を講義に付け加えた。また、実習に活かせるよう内容のテーマを抽出・提示し、レポート作成をするようにした。 ・学生の授業評価より、「講義資料がカラーで重要項目などわかりやすかった」との意見があり、資料の工夫を継続して行う。
---	--

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解(DP1)	思考判断(DP2)	意欲関心(DP3)	態度(DP4)	技能表現(DP5)
	やや達成された	やや達成された	やや達成された			達成された
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績(トータルの成績、行動目標あるいはDP別)の平均値や分布(標準偏差、S、A、B、C、Dの度数)、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は74(±5.5)点であり、再試対象者は0名であった。標準レベルに達した学生は11名、理想レベルに達した学生は0名であった。科目が「周産期のハイリスク」ということで、疾患についての講義がほとんどであり、正常からの逸脱(異常)について説明・判断ができることを目標としているため講義内容の専門性は高い。 ・DPについては、知識理解・思考判断は、72%、技能表現は84%の達成度であった。 ・学習量の評価の予習・復習時間において、「授業に参加するために、1回30分程度以上の準備をどのくらい行いましたか」で「0回」と回答した学生および「授業を振り返るために、1回30分程度以上の復習をどのくらい行いましたか」で「0回」と回答した学生は共に43%、「1～3回」と回答した学生は共に57%だった。正常逸脱に関する講義内容のため、疾患や治療について理解するためには予習・復習が必要であるが、1回も予習・復習をしていない学生は4割以上であり、授業への取り組み方が課題である。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	①CP、カリキュラムマップ上の位置づけからみた内容的妥当性 本科目は助産の実践領域に位置する専門科目であり、必須である。学習到達度の自己評価の項目では意欲に関する平均値(3・6)が他の項目より高い。学生も一定の成績を収めており、内容的には妥当であると考ええる。 ②DP、行動目標からみた内容的妥当性 成績評価から知識理解・思考判断に対する達成度は標準レベルであった。本科目は、正常逸脱に関する判断を求められるため内容としては妥当であると思われるが、内容を理解するための事前の学習や復習が必要であり、学習量に関して課題がみられた。 ③まとめ 以上より、到達度自己評価は意欲についての平均値が最も高い反面、実際の学習量として予習・復習の時間に関する課題が残るが、内容に関しては妥当であると考ええる。
--	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

授業の質評価において、「的確に判断する力を得ることができた」についての平均値（3.2）が他の項目に比べ低かった。疾患を持つ対象のケアについては事例を用いるなど工夫したが、実践的な判断ができるよう症例の選択と内容の工夫が必要であった。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

本科目は助産の実践領域である専門科目である。授業過程では、ケアに関しては事例を紹介し、自分の意見をまとめるなど考えるような時間がなかったため、授業の中で考える場面の提供について検討する。
また、正常逸脱に関する講義内容のため、疾患や治療について理解するためには予習・復習が必要であり、学習量の取り組み方が課題である。

リフレクションカード 2016年度前期

学科	助産別科
氏名	稲木 光晴

1. 基本情報

科目名	配当学年	前期・後期・通年の別	必修・選択の別	学科横断の科目か	登録された受講者数
母性の運動科学	1	前期	必修	いいえ	14

2. 観点・DP上の位置

該当に○	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	○	×	×	×	×

3. 授業準備について

授業の実施にあたり大切にしていること、重点をおいたことをご記入ください。 開講時の学生の学習準備性を示し、授業計画にどう活かしたかを、「受講動機」なども参考にして記述してください。昨年度に授業の改善計画を立てた場合は、これをどう具体化したかを併せてご記入ください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、自由記述の意見など	本科目は必修科目であり、助産別科の学生すべてが受講する。そのため、受講動機を「必修科目である」と答えていた学生が100%であった。一方、「資格取得に必要である」や「関心のある内容である」と答えた学生はいなかった。これは、科目名から具体的にどのようなことを学ぶのかを学生がイメージしにくかった結果であろう。 妊婦運動の効果に関する研究は、数多くなされてきており（特に海外において）、授業においては、最新の研究結果をより多く紹介することによって、学生の興味・関心を引きつけられるようにした。 昨年度までと同様、毎回の授業において理解度チェックを行うと同時に、質問を受け付けることによって、学生の理解度を把握し、理解が不十分であったと思われる事柄については次回の授業で説明を行った。
--	---

4. 学生の目標達成状況について

(1)教育目標は達成されましたか。達成された～達成されなかったのいずれかを選んでください。観点別の達成状況は、該当する場合のみご記入ください。	全体を通して	知識理解 (DP1)	思考判断 (DP2)	意欲関心 (DP3)	態度 (DP4)	技能表現 (DP5)
	達成された	達成された				
(2)上記の評価の根拠を簡単にお示し下さい。 * 根拠として、成績（トータルの成績、行動目標あるいはDP別）の平均値や分布（標準偏差、S、A、B、C、Dの度数）、独自に設けた基準による達成度、学生の授業評価アンケートの結果など、できるだけ客観的なデータをお示しください。 ＜授業評価の指標＞ 「学修準備性」、「学習到達度の自己評価」、「学習量の評価」、「学修のための情報利用」、「図書館、インターネット利用」、自由記述の意見など	最終的な成績の平均値は77.2（±7.7）点であった。成績分布別にみると、89～80点が57%、79～70点が21%、69～60点が21%であった。全員が標準的レベルに達しており、57%の学生が理想的レベルに達していた。 学生による到達度自己評価をみると、「自分なりの目標を達成できた」では、「かなりそうだと思う」が7%、「わりにそうだと思う」が21%、「まあまあそうだと思う」が71%とすべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.4）。 「知識・理解（DP1）」に関する学生の到達度自己評価（質問項目2と3）についても、「かなりそうだと思う」が7～14%、「わりにそうだと思う」が14～36%、「まあまあそうだと思う」が53～71%と、すべての学生が肯定的に捉えていた（平均値3.5）。 その他、「思考・判断（DP2）」、「意欲・関心（DP3）」、「技能・表現（DP5）」、「態度（DP4）」に関する学生の到達度自己評価についても、平均値は3.3～3.5であり、すべての学生が肯定的に捉えていた。					

5. DP、CP、カリキュラムマップ上の本科目の位置づけについての評価

DP、CP、カリキュラムマップにおける本科目の位置づけからみた内容的妥当性の評価を記入してください。 ＜授業評価の指標＞ 「受講動機」、「学習到達度の自己評価」、自由記述の意見など	今回は、該当するDPとしては、「知識・理解（DP1）」のみとなっていたが、この授業では妊婦体験の中で様々なスポーツやマタニティピクスを経験させており、「技能・表現（DP5）」もまた含める必要がある。
---	--

6. 授業の進め方とその向上について

授業の進め方についての自己評価及び改善課題がある場合は改善方を簡単にお願いします。
また、学生からの意見については、必要に応じて、こちらに回答をお願いします。

<授業評価の指標>

「授業の質の評価」「学習量の評価」「学修のための情報利用」「図書館、インターネット利用」学生の意見など

学生による授業の質評価は、すべての項目とも平均値が3.2～3.4であったことから、授業の進め方は概ね良かったと考える。しかしながら、学習量の評価についてみると、約57%の学生が1回30分程度以上の予習・復習をまったく行っておらず、また、約79%の学生は授業課題以外の学習に取り組んでいなかったことから、学生の学習意欲をさらに高める工夫をする必要がある。

7. 総括的評価と来年度に向けての課題

達成状況の総括的評価と課題をお願いします。

目標は概ね達成できたと考える。

今後の課題としては、定期的に予習・復習を行う学生、また授業課題以外の学習に取り組む学生を増やすために具体策を考えることである。